

第三十二回花と緑新潟県俳句大会成績

日時 令和四年七月三十一日

場所 朱鷺メッセ

佐怒賀直美特選

風の茴香てふてふがぶらさがる 東京 土方 公二
春泥を跳んで伝言忘れけり 長岡 白井 良治
青鷺の羽音が影となる高さ 新潟 山口 啓介

井上弘美特選

よく嚙みてゆるき粥食ふ敗戦日 南魚沼 関 千年雄
夏兆す青年医師の二色ペン 新潟 渡辺 徳治
万緑の風になりたき子等のこゑ 長岡 下條 春秋

上田日差し特選

花の種ただそれだけの封書かな 新潟 池田亜紀子
かすみ草母の記憶のあかるき日 新潟 長谷川みき子
生き生きとわれを見てゐるアマリリス 愛媛県 近藤 久光

奥名春江特選

夏草や人通らねば道消ゆる 新潟 村山 靖子
散る牡丹深息ひとつほうと吐き 新潟 米岡 幸子
今年より母の畑継ぐ花なづな 長岡 星野 榮子

片山由美子特選

残雪の窓をそびらに離任式 南魚沼 井口 光雄
ものの芽をつたはる雨のうすみどり 新潟 岩崎 千尋
錦鯉沈みて色の浮き上る 新潟 山口 啓介

菅野 孝夫特選

郭公やダムのさざ波ささ濁り 三条 牧野夕美子
村雪解家軽くなるかるくなる 上越 石田 波一
苗売に選んでもらふ瓜の苗 小千谷 渡邊 幸子

小島健特選

村雪解家軽くなるかるくなる 上越 石田 波一
いま羽化の蟬のたましひ濡れてをり 新潟 山口 啓介
その果ての戦禍も知らず鳥帰る 新潟 坂上いさむ

しなだしん特選

良寛の乞食の径木の根明く

出雲崎町 菅沼 義忠

引き入れてしばし田水の笑ひ声

魚沼 山之内喜七

はだれ野や鳥が跳ねては光食む

阿賀野 榎木 幸子

中原道夫特選

素潜りの手を突き上ぐる大鮑

佐渡 高埜 健蔵

たんぽぽやかからだはんぶんランドセル

新潟 田辺 洋子

夕焼やコンテナ船も溶かす海

東京都 杉山 昌

高得点

一位 自転車を曳いて下船や島の夏

新潟 外山 令子

二位 春泥を跳んで伝言忘れけり

長岡 白井 良治

三位 更衣今日より風を着て歩く

三条 久和原 賢

四位 眠るだけ眠つて帰省をはりけり

長岡 平賀 寛子

五位 いま羽化の蟬のたましひ濡れてをり

新潟 山口 啓介

六位 夏草や人通らねば道消ゆる

新潟 村山 靖子

七位 清明や石工が石を佛にす

長岡 神山 リエ

八位 草萌の大地を踏みて足場組む

南魚沼 小池 旦子

九位 夏兆す青年医師の二色ペン

新潟 渡辺 徳治

一〇位 そらといふさみしきところゴム風船

新潟 渡辺 徳治

一一位 笹粽こどもの使ひにて届く

長岡 米山 節子

一二位 花の種ただそれだけの封書かな

新潟 池田亜紀子

一三位 良寛の乞食の径木の根明く

出雲崎町 菅沼 義忠

一四位 雛の灯を消して我が灯を消しにけり

新潟 渡辺 徳治

一五位 百枚が一枚となる青田かな

村上 佐藤さき子

一六位 村々に水行きわたり燕来る

新潟 小黒 正

一七位 杖一步われも一步や花の道

新潟 本間 悦子

一八位 明日は子の手土産となる干鰯

新潟 小出 利恵

一九位 吊橋に声をゆらして夏帽子

新潟 関 芙美

二〇位 かって戦火逃れ来し河大花火

長岡 木曾 武子

二一位 母小さし影なほ小さし麦の秋

佐渡 高埜 健蔵

二二位 地球儀の世界は一つ聖五月

長岡 立石 幸子

二三位	先生の資料は手書き窓若葉	新潟	若月 柳子
二四位	製繩機からから踏んで待つ雪解	新潟	鳥羽サチイ
二五位	曝す書にまじり二冊の母子手帳	長岡	藤沢 潮子
二六位	貝を焼く焰のあをき海開き	柏崎	水野 宗子
二七位	口笛を吹いて大工の涼しさよ	長岡	石塚 吉江
二八位	蛙鳴く闇深まれば闇の声	南魚沼	関 由美子
二九位	朝桜豆腐屋の湯氣豊かなり	長岡	木曾 武子
三〇位	夕鐘や大きな耳の水芭蕉	長岡	木曾 武子
三一位	水飲んでまたメーデーの列に入る	三条	関川 芳弘
三二位	大川の光あまねし袋掛	南魚沼	小池 旦子
三三位	青空をてんこ盛りして田水張る	長岡	立石 幸子
三四位	目貼り剥ぐ越後の空の青さかな	新潟	熊谷 國男
三五位	風に乗り風に抗ふ糸とんぼ	新潟	熊谷 國男
三六位	行く春を採血室に呼ばれけり	新潟	山口あつ子
三七位	椿落つ一輪挿しの高さから	佐渡	絹沢 裕子
三八位	笛方に少女もをりぬ村祭	新潟	佐藤 とよ
三九位	鼻柱つよき会津の囃鮎	新潟	澤井 義司
四〇位	この村の名字は二つ桐の花	長岡	若月 里の
四一位	玉葱や納屋にあまたの太き釘	阿賀野	榎木 幸子
四二位	半分は野に返す畝遠郭公	新潟	長谷川みき子